

平成25年度第4回 まちづくり寺子屋

「明日のいばらきを創るために」講義概要

日 時：平成25年12月14日（土） 午後1時～

場 所：茨木市役所南館10階大会議室

テーマ：「いばらきの強み弱みを考える」

講 師：立命館大学政策科学部 教授 服部 利幸 氏

<服部先生のプロフィール>

公認会計士として監査法人に勤務されたのち、2003年より立命館大学政策科学部でご活躍されています。

管理会計・経営戦略分析を専門とされ、企業経営における課題の認識や解決のための事業計画策定や経営戦略分析の手法、戦略マップなどのツールの開発に取り組むほか、京都の老舗企業を対象とした調査・研究も行っておられます。



立命館大学政策科学部
教授 服部 利幸 氏

本日は、明日のいばらきを創るために、皆さんに「いばらきの強み」を考えていただきます。

皆さんにはPBL(Problem-Based Learning)という手法を体験していただきます。PBLとは、皆で意見を持ち寄ってグループワークを展開し、実際にフィールドに出て勉強するといった問題に基づく学習法で、今ではどの大学でも導入しています。

「まちの強みとは何か」、「茨木市にどのような強みがあるのか」を再認識するため、茨木市に長く住んでいる方も最近来られた方も、様々な立場で議論していただきたいと思えます。

●9テーブルに分かれてグループワークを行い、「いばらきの強み」について意見を出し合いました。



一人10個以上、いばらきの強みを付箋に書き出し、班のメンバーと相談しながら、模造紙に貼りました。

各班から出された主な意見は次のとおりです。

【1班】

• 古い歴史、文化がある（銅鐸の鋳型など）	• 歴史的遺跡が多い
• 自然豊か、緑が多い（さくら通りなど）	• 教育水準、文化水準が高い
• 市中心部に行政機関が集まっている	• 住みやすいまちで、人口が微増している
• 中規模人口の都市で落ちつきがある	• 交通機関が充実している（鉄道・バス）

【2班】

• 交通の便がよい（JR、モノレール、阪急）	• 学校のレベルが高い
• 公園、元茨木川緑地が美しい	• 商業・医療施設が身近にある
• 人口増加率が高い	• 市の広報が発達している
• 山があり、市街地もある	• 災害が少ない地形である

【3班】

• 自然が豊かであり、公園も充実	• 隠れキリシタンの里（千提寺）がある
• 交通の便がよい（JR、高速道路のIC等）	• うどやいも等の名産品
• 文化施設の充実（市民会館、図書館等）	• 公民館活動の充実（小学校区）
• 立命館大学が開学すると「教育」のイメージがより強くなる	

【4班】

• 都市（大阪、京都）に近い	• 芸術のまちである
• イベントがユニーク（ハルフェスタ等）	• おいしいお店が多い
• 文教地区であり、教育に熱心である	• 歴史がある（茨木城の城下町）
• まちが清潔	• 川端康成が生まれ育った地域

【5班】

• 茨木童子	• 西国二十二番札所 総持寺
• 椿の本陣（宿場町）	• 太田茶臼山古墳
• 車で他都市に行きやすい	• 高齢化率が府内では低い
• 自然、山林が多い	• 長い緑地帯（元茨木川緑地）がある

【6班】

• 大企業が立地している	• 病院が多い
• 大学が多い	• 文化施設が整っている
• 見山の野菜がおいしい	• 文化財が多く、歴史のあるまち
• 超高層マンションがない	• 小中学生の学力レベルの向上が見られる

【7班】

• 町医者が多い	• 自然と都市が調和している
• 教育環境がよい（立命館大学の進出等）	• 市民がまちづくりに熱心
• 買い物が便利（スーパー、コンビニ等）	• おしゃれなカフェがある
• 西河原公園で蛭が見られる	• 万博公園、大阪大学付属病院に近い

【8班】

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・富士正晴記念館・みかん狩り、芋掘り等自然を楽しめる・大型ニュータウンの彩都・生涯学習の講座が充実 | <ul style="list-style-type: none">・桜並木がきれい・青とう、三島うど等新鮮な野菜が手に入る・京都、大阪、神戸に近い・教育レベルが高い |
|--|--|

【9班】

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">・商店街に活気がある・歴史や文化、自然がある・大学があり、教育環境がよい・川端康成のゆかりの地 | <ul style="list-style-type: none">・交通の便がよい・図書館の蔵書数が多い・行事、イベントが多い（弁天さんの花火）・三島うどが名物 |
|--|--|

●続いて、隣の班で出された意見の中から、新たな気づきや発見があった意見が書かれた付箋を3枚選んで自分の班に持ち帰り、班ごとに意見を分類し、最後に、各班がグループワークの成果を発表しました。



●グループワーク終了後、先生から講評とまとめのお話がありました。

短い時間でしたが、皆さんには全力で色々な「いばきの強み」を考えていただきました。他の班の意見を聞くと、自分たちの班とは少し違うと気付いたと思います。

同じグループ内では、皆一定の視点で物事を見てしまいます。そこで、視点を変えてもらうために、隣の班から気になった付箋を選ぶという仕掛けをしました。隣の班の成果を目にすると、まず、付箋の色や配置、字体の違い等に気づき、視点が変わります。さらに、他の班から説明を受けて、自分たちの班と議論のプロセスが違うことに気付きます。

そして、視点の変化した人が自分の班に戻り、違う視点を持ち込んだのです。



物事を観察する際には「多角的な視点」が必要と言われますが、短い時間内では難しいので、他人の知恵を借りたということです。

物事には「内部の視点」と「外部の視点」があります。班の中で、短時間ながら「内部の視点」が生まれ、そこに他の班からの「外部の視点」が入ってきたと考えてください。そして、「内部の視点」を「住民の視点」と置き換えてみてください。

班ごとに皆さんの意見を拝見したところ、基本的な「強み」はあまり差異がありませんでしたが、それに対する「外部の視点」は、気をつけなければ「おせっかいな視点」になることがあります。つまり、教育などに関しては、内部の人（住民）しか享受できないということです。

「強み」には「価値観」が伴います。その人が何を大事にしているかによって「強み」や「弱み」は違うものになることがあります。例えば、立命館大学が市に開学することを「強み」に挙げて頂けるのは嬉しいことですが、それを支持する人が何に価値を見出すかを考えなければなりません。価値観や判断基準は様々であり、人によっては、「大学が来ると、夜遅くまで大騒ぎをする学生が増えて困る」と考えるかもしれません。

まちづくりに関して言えば、皆さんの価値観を、じっくりと、それぞれの場で醸成していく必要があります。そのためには、対話と理解が必要です。班で議論する中で、個人の価値観を大事にしながら、対話を通じて互いを理解し、グループとしての価値観が形成されたのではないのでしょうか。対話と理解を深めるために、「外部の視点」を取り入れることも必要です。イベント等を開催することも、ひとつの手段として考えてください。

本日挙げていただいた「強み」はいつまで「強み」であり続けるのでしょうか。例えば、人口増はずっと続くのでしょうか。強みの多くは期限があり、状況によって変化するものもあります。そのように考えると、実は一番大事なものは、住民の皆さんが「やっていける」と思える風土やプロセス、場の存在ではないのでしょうか。

時代と共に変わっていく「強み」や「弱み」について考える、価値観を方向づける場やプロセスを持った「まち」であることこそが最大の「強み」になるのではないかと思います。例えば、企業にとっての「強み」の一つとして、ブランド等が挙げられると思いますが、本当に強い企業は、その「強み」を生み出せるプロセスを持っている企業です。このような考え方を意識して、今後のまちづくりに活かしていただきたいと思います。



編集：茨木市都市整備部都市政策課

〒567-8505 大阪府茨木市駅前三丁目8番13号

TEL：072-620-1660（直通）／ E-mail：toshi@city.ibaraki.lg.jp